

小学校第5学年 図画工作科学習指導案

学習指導者 さぬき市立寒川小学校 教諭 佐々木 省治

1 題材名 あったらしい町、どんな町（開隆堂出版）

・題材の目標

- ㊦ 想像した世界を効果的に表せる材料や技法を選び、構図や色のバランスなどを工夫して絵に表すことができる。
- ㊧ あったらしいなと思う町の具体的なイメージを想像することから、どのように表すかを考えている。
- ㊨ 想像を広げて描くことの喜びを味わい、自分のイメージした世界の表現に、楽しみながら取り組む。

2 題材の指導計画（全6時間【本時1／1】）

次	時	学 習 活 動	評 価 規 準	評 価 方 法
一次	1 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉遊びや作品鑑賞から、発想の広げ方について知る。 ・学習のめあてをつかみ、身近なものからの発想を広げる。 ・広げた発想から、ホワイトボードに絵と4要素を描き、構想を練る。 	<ul style="list-style-type: none"> ㊦ ゲームや作品鑑賞から、発想の広げ方や表現の方法について気付くことができるか。 ㊧ 発想を広げ、不思議な絵の原案が絵や文章でかけているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・描いたホワイトボードの写真 ・発表 ・活動の様子
二次	2 ～ 5	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の表現したい内容に合った表現の技能や用紙などを選択する。 ・自分の表現したい内容に相応な技能で絵に表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> ㊨ 想像した世界の表現に、楽しみながら取り組んでいるか。 ㊧ 自分の思いに合った内容を、豊かに表現できているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の様子 ・作品
三次	6	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の発想から表した絵を説明するための文章を書き、友達に絵とともに紹介し合う。 ・また、友達の発表を聞いて、感じたことを話し合うなどの交流活動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ㊧ 友達の作品を見たり、説明を聞いたりすることで、自分との発想の広げ方や表現の方法について気付くことができるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート ・発表の様子

3 授業の見どころ

- ・ 発想の言語化を通して、曖昧なイメージの明確化を図る。
- ・ ホワイトボードを使ってアイデアスケッチを描くことで試行錯誤を容易にし、児童の意欲を喚起するとともに、発想を広げる。
- ・ ICTの活用により、児童間の交流を促し、発想の苦手な児童への支援とする。

4 本時の学習計画

- (1) 本時の目標 言葉遊びをヒントに発想を広げて言語化し、それをもとにアイデアスケッチを描くことができる。
- (2) 学習指導計画

学 習 活 動	児 童 の 意 識 の 流 れ	教師の支援・援助、評価
<p>1 グループごとに言葉を並び替えて、文章を作るゲームをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「どんな」「何」「どこで」「どうした」という項目を各自で考え、並べて文章にする。 <p>2 例示された児童作品を見て、どこが不思議か考え、発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 項目ごとに言語化し、不思議なポイントを探す。 <p>3 学習課題をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 評価規準を明らかにし、教師・児童間で共有する。 <p>4 項目を考えて組み合わせ、<u>不思議な町のイメージを表す。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>文章化できたら、ホワイトボードにアイデアスケッチを描き、イメージをより明確なものにする。</u> ・ <u>できたスケッチをロイロノートで提出・共有し、参考にしながらスケッチをどんどん描いていく。</u> ・ <u>早くできた児童は、自分の表現に見合う色の画用紙を取って下描きをする。</u> <p>5 次時の計画を確認する。</p>	<p>文章の一部の言葉の組み合わせを変えることで、面白い文章になったね。</p> <p>伝説のトカゲという生き物(何)がいるから、建物(どこ)の雰囲気が(どうした)面白いね。</p> <p>町全体(何)が空に浮かんでるのが(どうした)面白いね。</p> <p>甘い(どんな)から、町全体(どこ)がチョコレートのような色をしている(どうした)ところが面白いね。</p> <p>自分でもこんな不思議で面白い作品を作ってみたいな。</p> <p>想像を広げて「あったら面白い町」を、絵に表す準備をしよう。</p> <p>「どんな」「何」「どこで」「どうした」の中のどれか一部(全部)を工夫すると、面白い町になるね。</p> <p>絵の中身(構成物)を、どこにどうやって描いたら、面白い町になるのかな。</p> <p>どんな(モチーフの様子)を変えてみよう。</p> <p>何(主になるモチーフ)を変えてみよう。</p> <p>どこで(場面)を変えてみよう。</p> <p>どうした(モチーフの動作)を変えてみよう。</p> <p>面白い下描きができてきたよ。</p> <p>もっと他にも考えてみよう</p> <p>友達の描いたスケッチを参考に、自分なりのアイデアが出てきたよ。</p> <p>不思議な町のイメージが決まってきたよ。</p> <p>楽しい絵を描くことを、どんどん進めていこう</p>	<p>○項目ごとに色を変えた付箋と、並べて貼れるような台紙を準備する。</p> <p>○参考作品を見るとき作品の特徴を先の4つのどの視点に当たるかを考えることで、作品の見方を定め、本時の活動に生かせるようにする。</p> <p>○発想が広がりにくい児童に、まず「何」を決めて、次にどの項目を変えるかを助言する。</p> <p>評)言葉の組み合わせを作る中で、自分のイメージを広げ、不思議な町の下描きに生かそうとしているか。(写真、観察)</p> <p>◎「不思議な町」のイメージが広がるように、友達がホワイトボードに描いたスケッチをタブレットで撮影、ロイロノートで共有する。</p> <p>○児童のイメージに合うように様々な色の画用紙を準備しておく。</p> <p>○互いのスケッチの写真を観賞することで次時の活動の意欲化を図る。</p>

(3) 評価 自分のイメージを言語化したものを生かし、面白い町の下描きができたか。